

青森県立金木高等学校

住 所 北津軽郡金木町大字金木字芦野二〇〇―四〇三

生徒数 男子九一名 女子一七二名

部員数 四名

顧問 木村 厚

北津軽の芦野ヶ原の一角に、太宰の里金木町（世帯数三千八百戸、人口約一万三千人）がある。本校の位置する金木町は、一市三ヶ町村が隣接する静かな農村地帯である。小説家太宰治や歌手吉幾三の出生地ということもあって、最近では方々から若い人たちがおとずれている。

いま本校は、創立四十周年を迎えようとしており、例年になく校内に活気が感じられる。しかしながら、わが空手道部にあっては部員が年々少なくなり、現在では一年生が二人、二年生が二人の四人だけになってしまった。昭和六十年に空手道愛好会が誕生し、その翌年には空手道部としてスタートした。当時は、柔道、弓道、剣道、相撲の各部がりっぱに活動をしており、昭和六十一年からは空手道部も仲間入りすることになった。部員を集めるために、クラブ活動と連動させるなど、部としての形態が整うまでに二―三年を要した。各種試合に臨んでは、思うような戦績をあげることができず、参加することに意義あり」というレベルに甘んじてきたことは否めない。なお、県内の高校の中では、本校の空手道部は最も歴史が浅い。

しかし、一方では試合とは別の活動も行ってきた。本校の文化

祭において空手の演武を披露してきたのもその一つである。また、中学校の生徒に対する体験入学を過去三回実施したことがあり、そのときには練習の様子や空手の演武を紹介してきた。中学校ではほとんどない部活動だけに、中学校にとっては多少なりとも印象深いものがあつたと思う。

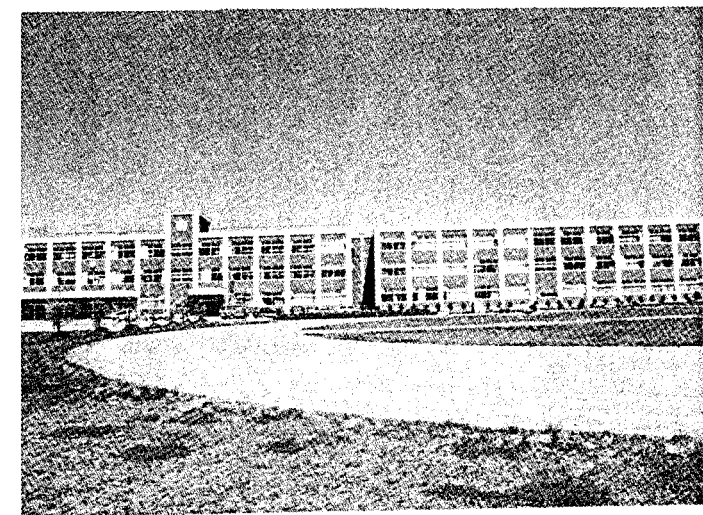
ただ、六―七人まとまって入部する年度もあるが、まったく入部者のない年度もあつて、部活動の指導は安定しなかった。もちろん他校においても同様の悩みがあるであろう。加えて、この八年間に全校で十四クラスもあつたものが、現在ではその半分の七クラスになってしまった。誠に残念というほかない。本校では女子生徒が七割近くを占めるだけに、女子部員の入部を常々望んでいるものの、いまだにその願いは果たされずにいる。

ところで、部活動の活性化が叫ばれて久しいが、その実態は決して喜べる状況にはなく、現在も職員一同なんとかせねばと悪戦苦闘を重ねているところである。先にも触れたように、今年度の学校創立四十周年記念という節目を契機に、再度部活動の活性化がこれまでになく熱を帯びてささやかれるようになってきた。わが空手道部についても、どのようにして力をつけていくのか大きな課題を背負う事になった。以下、本校の空手道部についてこれからの展望を述べてみたい。

今後は、最低でも部員を十人程度までに増やす努力をしていきたい。強靱な体を作り俊敏な動作を身につけさせることで、高校生活に対するあるいは生きることの自信を一人一人につけさせてやりたい。また、学習活動において悲哀を感じている生徒も多い

だけに、空手の練習を通して自分自身の変容や成長を実態としてとらえさせてやりたい。そうすることで、生徒はこれまでに経験したことのない充実感や存在感を体得できるものと考えている。大きな試合で勝利を得たり、有段者になることも生徒にとっては想像以上の励みになるであろう。

このように、部活動としての空手道は、他の部活動と同様に教育的に意義の大きいものがある。特に、本校の空手部員にあっては、次のようなことが下位目標としてあげられよう。



- ⑦ パワーとスピードアップにつとめることができる。
⑧ 指導者の指摘を、素直に受けとることができる。

- ① 返事や挨拶がきちん
とできる。
② その場にふさわしい
行動や物言いができる。
③ 自分の健康管理をき
ちんとできる。
④ 空手の動きに限らず
きびきびした行動をと
れる。
⑤ 短い練習時間であっ
ても、毎日休まず練習
ができる。
⑥ 大きな声で気合いを
入れることができる。

- ⑨ 自己の中に、モニターとなるもう一人の自分を置くことが
きる。

これらの下位目標は、こと空手のことのみについてあてはまることではない。学校生活のみならず日常生活においても、きわめて大事な事柄である。この基本的な一つ一つが、優れたチームや実力のある選手にはみな共通して備わっており、各高校の指導者のチーム作りにはほんとうに感心させられる。わが空手道部にとっ
ては、どのチームも模範的な存在であり、今後それぞれのすばら
しい点を意欲的に吸収していきたいと考えている。

本校の生徒が、心身ともに一段と逞しく成長してほしいと願う
ことはもちろんのこと、青森県の空手道界が益々発展していくよ
うに、顧問としてもなんらかの貢献をしていかなければならない
とその責任を痛切に感じているところである。

教育目標

校訓の「誠実」「進取」「建設」をむねとし、
自主自立の精神に富み、心身ともに健康で豊かな知
能と情操をはぐくみ、勤労を尊び、現代社会の進化
に即応し、地域の要望に応え得る人間の育成をめざ
す。